

## 平成29年度実施プログラム参加者アンケートの主な意見・感想

感想・意見
《実施者と受講生との交流》
あまり関係ないですが、昼食やクッキータイムがあるのは、とてもいいと思いました。こういう時間があるだけでとても楽しめたので、行けたら、また、この機会に参加したいです。
大学生がとてもフレンドリーで楽しかった。チームのみんなとも仲良くなれて本当に楽しかった。
先生とかも、とてもやさしく、分かりやすく接してくれたので自分でも安心して楽しんで実験をしたり、せつめいを聞いたりできた。
先輩が実験の仕方を分かりやすく教えていただいととてもよかったです。また、クッキータイムの時も高専について先輩からいろいろ聞けるのがとてもよかったです。実験をグループでやることでいろんな学年の人と実験するのが楽しかったです。
《参加者の募集について》
今回、大学選び参考にと行って参加しました。将来は理系に進みたいと考えています。医工学研究科は、科学という分野のみならず、医学にも深い関わりがあるため、たくさんのことを学びたいと思ったらピッタリだと思いました。職業選択の幅も大きく広がるので、すばらしい科だと感じました。お弁当を食べながらお話を伺うことができたので、緊張がほぐれて質問しやすかったです。このような機会は、たくさんの人にあってほしいと思ったので、もっと大々的に宣伝していただきたいです。楽しく有意義な時間を過ごせました。ありがとうございました。
参加させていただき、ありがとうございます。先生の活動の様子を少しでも現場(例えば小学校、中学校等)でPRすれば／できればいいのではないかと思います。地道に活動されているのに、研究の様子が世間あまり知られていないのでは?と思いました。
親も一緒に参加させていただけたので、どういうことを教えていただいたのかよく分かりとてもよかったです。私自身も、先生に質問させていただくと勉強になりました。子育てについての講義(昼)では、とても参考になることがたくさんありました。どういうことを研究しているのかわかり楽しかったです。これからの子育ての参考にさせていただきたいと思います。
駅や電車の広告などしていただければ、もっと多くの生徒が参加希望するのではと思った。
《将来・研究者について》
生物ではなく、物理を選択したので、高2になったら学ぶ機会が減ってしまうと思うが、自分は生物に興味があると今回改めて実感したので、自分で勉強しようと思った。また、ランチタイムの時に一緒になった先生の話はとても面白く、今学びたいことがずっと変わらない訳ではないと思ったので、色々なことを興味持って、学ぶ姿勢を大切にしたい。普段できない体験がたくさんできた。参加して良かったと心から思う。
バイオリギングについて知識を深める事が出来た。高校では河川の底生魚について研究をしているので、魚たちに付けれる様な大きさの装置を将来作ってみたいと思った。種類によって行動が全く違って興味深かった。また機会があれば参加してみたいです。
今まで、実際に手術の道具を触ってみたり、操作してみたことはなかったので、とても貴重な体験をすることができてよかったです。私は将来、医学の道に進みたいと思っているので、この経験をこれからは活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
今回のプログラムの中で、今まで一度も見たことのないようなロボットが複数見られた。その中でも僕が一番面白く興味を湧いたのは、波動制御装置で、とても活躍するのではないかと思った。院生の方のお話にあったが、津波も打ち消すことができるという話にいいなと思った。また、技術を発展させれば地震さえも止められるとても有用なものだった。このようなものを自分で作ってみるのも面白そうだと感じた。
今回の体験を通じて、研究者になりたいと改めて考えました。確かに人前での発表は苦手ですが、調べたり研究したりするのを一つの形にまとめることや何よりみんなで一つのことを細かく調べ上げていくことが、私にとって幸せを感じる事だったからです。将来は医学者となり、まだ治療を行うことのできない病を治せるようになりたいです。

平成29年度実施プログラム参加者アンケートの主な意見・感想

感想・意見
《内容について》
<p>ジャムで美味しかったし、アカフサスグリがユニークで面白かったし、種を取ったり花粉を見られてすごかった。見て、食べて、感じられて良かった。また植物など生き物の事をやって下さい。分かりやすかったし楽しかったです。ありがとうございました。</p>
<p>昨年参加したけど、やったと覚えている所もあったし初めて知る事もたくさんあって楽しかったです。バイオリギングを利用して出来る事がまだまだたくさんあると思い、僕もやってみたく少し興味がわきました。他にも科学を使った研究を将来してみたいと思いました。ありがとうございました。学生さんが楽しくて面白かったです。</p>
<p>初めてこのような企画に参加したのもものすごく楽しかったです。ロガーを付けてやった実験ではフグ2匹で動き方が違ったのでとても不思議に思いました。魚はストレスで泳いだり泳がなかったりする事がわかりよかったです。次はストレスをちょっとでも無くして長時間実験をしてみたいです。もっといろいろな魚のデータを見たいなと思いました。</p>
<p>もう少し長く居たかったので、長い時間にした方がよいと思いました。今日やった釣りはすごく面白かったです。</p>
<p>耳で聞く時間より、製作や見学・体験など体を動かして学ぶことの方が多かったため、眠くならず楽しんで参加することができました。耳で聞くよりも分かることが多く、今後の進路を考えるにあたって大変参考になりました。本日はありがとうございました。</p>
<p>楽しかったけど、できれば時間の予定通りに進めてほしい。間に合うはずだった家の門限に間に合わない可能性がある。</p>
<p>1人1人が活躍できる場面があり、良いプログラムだった。小さいものをまず作り、それがだんだん大きくなって行く過程が良かった。最後に大きなものを作ったが、脳の細胞が複雑で多い、というイメージをもつのにちょうどよいプログラムだった。研究員の講師の方がとても親切に1人1人に丁寧に声かけて接してくれてありがとうございました。また機会がありましたら参加させてください。</p>
<p>普段入ることの出来ないNICUへ行くことができ本当に良かった。元気な赤ちゃんもいれば、何か病状をもった赤ちゃんまでたくさんの赤ちゃんがいました。皆、一生懸命生きていることをとても感じました。この赤ちゃんをケアする方や支える方がいて、赤ちゃんだけでなく家族もしっかり不安な気持ちにさせないようにすることが大切だと分かった。赤ちゃんを抱いたり、蘇生法をすることができ本当に良い経験になりました。声をかけ合うことがとても大事であることが分かった。今日は本当にありがとうございました。参加でき、本当に良かったです。今後の力にして頑張りたいと思っています。今日は本当に本当に有難うございました。</p>
<p>イネの完全・P欠乏・K欠乏・N欠乏・塩害区の5つを色々な観察や分析を通じて比較することが出来て、本当に良い経験になり、心から嬉しく楽しかったです。私は植物が好きで、図鑑を眺めたり、栽培したり、山や野原を歩いて採取してきたりしましたが、植物の生育について詳しくやっていなかったのですごく勉強になりました。家でも植物が枯れることがあります。私は原因として日照不足や水不足が原因だろうと思っていましたが、それだけではなく肥料の三要素や必須元素の不足によっても生育が悪くなることが分かりました。たくさんの実験ができて満足です。今日学習したことを活かして元気な植物を育て保てるようにしていきたいです。本日は本当にありがとうございました。</p>
<p>申し込んでからずっと楽しみにしていました。実際に顕微鏡を自分で動かしたり3DでATPを見たり興味のある分野なので、とても楽しむことが出来ました。</p>
<p>聞いているだけでは理解するのが難しかったけれど、実際にやってみることで、仕組みを理解することができたので頭を使いながら体を動かすのは大切だと思いました。TAの先輩も親切で説明もわかりやすかった。</p>
<p>内容は面白いが小学生には難しい話だった。実験ノートがありそこに書き込む、撮った写真を張り付けるといった工夫があればもっと理解できたかも。</p>

## 平成29年度実施プログラム実施者アンケートの主な意見・感想

感想・意見
《経費について》
<p>地域貢献したい、科学に興味を持って欲しいという思いでお手伝いしていますが、毎年、県内参加者が少なく、科学よりも医学部に興味があり、オープンキャンパス的な感じで来られる方がほとんどで残念です。予算の持ち出し部分が多く、もう少し考慮していただきたいです。</p>
<p>素晴らしい企画と思いますが、真剣に取り組むには予算不足を感じました。</p>
<p>参加者の事後活動を支援することは、科学への興味を継続させる上で非常に重要になる。事後活動を支援し、その活動を追跡調査できるように、プログラム終了後でも予算使用を可能とする制度が必要と思われる。</p>
<p>「傷害保険」の対象者⇒参加者及び実施者、「飲食費」の支出対象⇒受講生及び実施者のみと限定されており、傷害保険に合わせる形で全ての者に飲食費を支出できるよう規定を改めていただければと思います。(付添いの教師・保護者らがクッキータイム等を通じて受講生と交流を持つことは、本プログラムにとり有意義なものと考えます)</p>
<p>事業費の執行開始時期をもっと早めて欲しい。</p>
<p>1人でも多くの方に参加してほしいが、地方の高校生には交通費等の負担があり、何か対策はないかと思った。</p>
《募集方法・広報について》
<p>複数回参加者が多く、ひらめき☆ときめきサイエンスを知っている人は申込み開始時、すぐに申し込むことができ、短期間で枠が埋まってしまう。このため、初めての新規の受講者が増えないのでは？採択されてすぐに「予告」を広くアナウンスして、その後、受付をオープンすることでより多くの人にこの事業を知ってもらうことが可能かと思われます。</p>
<p>プログラムの名称が難し過ぎたため、広報活動に難儀したが、プログラム当日は専門用語を極力使わない(又は補足を入れる)ことで、高校生にもわかりやすく説明することができたと思う。夏休み中の開催は、参加者集めに非常に苦労(チラシを高校の送っても、休み)した。また、キャンセルが4名も出てしまい、非常に残念であった。</p>
<p>学術振興会のHP上に申し込みが公開されてから、非常に多くの方が全国から申し込んでくださり、非常にうれしかった。もし、次の機会があれば、もう少し自分自身で考えるような問いかけとdiscussionの多い双方向の講義ができるように努力したい。</p>
<p>キャンセルに対応するのが大変でした。受付完了時にキャンセル等はなるべくしないよう伝えましたが、予定がわかっていないのに申し込みをしたりする方は多いのが現状です。今年度は、キャンセル待ちを10名ほど準備してキャンセルに対応いたしました。時間と労力が掛かってしまいました。</p>
<p>応募方法が機関申込サイトと実施機関への直接連絡の2通りがあった為、満員で申し込みフォームでのエントリーが終了した後も応募者からの連絡が絶えず混乱を生じた。間口の広いエントリー方法を検討すべきであった。</p>
<p>今年で4年目となり、近隣の中学校での認知度が高まり、中学校の先生からも中学生へ勧めていただけるようになった。その結果、申込開始後すぐに定員に達するようになった。継続は力なりである。</p>
《プログラム実施・内容について》
<p>今回の参加者は、中学1年生～高校3年生までと幅広い学年の生徒だった。生物や研究職に興味のある学生が、これほどまで幅広い学年で顔を合わせる機会は滅多にないと思うので、とても良い機会になったのではないかと思います。その一方で、知識差のる学生達に一律の理解度で教える難しさも感じた。また、今回は教員の方も参加もしており、学生に負けずに熱心に説明を聞いていたので、授業の内容も広がるのではないかと思います。</p>
<p>大学生(補助者)の理解度で班の進度が変わる。前日などの事前実験などで進め方をもっと理解していれば教えられることももっと多かったと思う。</p>

## 平成29年度実施プログラム実施者アンケートの主な意見・感想

感想・意見
必ず後半はうちとけてリラックスしてくれるので午後のプログラム構成が重要と感じました。
オープンキャンパスのピーク日での開催だったので、開催時期についてはもう少し検討したいと思う
当方は研究のプロであるが、一般市民向けの学習会については素人である。十分なことはできないが、そのことを指摘されても対応できないこともある。今後どうしようかと迷っている。
こちらが用意したプログラムの趣旨と、参加者が期待するプログラム内容をマッチさせるのは難しい。特に野外での活動は、テーマパークのようなサービスを行うことができないが、参加者にそれを期待されてしまうと難しい部分がある。
多くの職員の協力で、十分な内容の取組ができ、子ども達も初めての体験が出来ているのではないかと思います。特に全体を取りまとめて下さる事務の方が、各部署(病院見学では、病院職員への周知も含めて。)への細やかな配慮があってこそ、スムーズに進んでいると思います。子ども達の笑顔から、こちらにも元気をもらうことが出来ました。
研究成果の還元自体には大きな意義を感じ、再度取り組みたいと思うが、実施について研究以外の労力を考えると二の足を踏む。
《その他》
このような枠組み以外に、研究成果の広報を目的として理科教員や技術者などの社会人を対象としたプログラムがあればよいと感じました。
自分が小・中・高校生だった頃にこういった事業がおこなわれていたら…と毎年思います。沢山のプログラムが実施され、多くの子供達に「科学って楽しい！！」と思ってもらえたら嬉しいです。
科研費で得られた最先端の研究成果が参加者の科学技術に対する興味の喚起につながり、とても嬉しく思います。研究へのモチベーションが更に上がりました。
小中学生の時代に体験した興味深い(おもしろい！と感じる)経験は、記憶に残りやすく、この経験が進路・将来の人生を決定するきっかけになることも多いのではないかと感じます。我々が小中学生に対して、このような体験が可能な環境を整備・構築し、提供していくことこそが、未来の日本の科学技術をレベルアップさせることができる足がかりになると考えます。また、科学が苦手な小中学生においても、科学の面白さを知ってもらうだけでなく、科学の分野以外における物事に対する探究心や問題解決能力を培ってもらうことができる良いきっかけになるのではないのでしょうか。その為にも、我々自身が社会貢献事業の一つとして、このような体験を積極的に提供していく必要があると感じます。
近隣地域でひらめきときめきサイエンスを実施した研究室との交流会などがあれば実施した時の工夫などを交換できると思います。
学振からいただけるグッズで以前あったメモ帳は参加者に好評なので、復活させてほしい。
10年間このイベントを続けており、今回は自主的に過去の参加者からの祝福メッセージなどをもとに10周年記念の掲示を行った。できれば学振からも「ミレニアムプログラム」などを企画して、全国的なアピールをしていただきたい。
「科研費の説明」のビデオメッセージを作って欲しい。毎回うまく説明できていない気がする。
JSPSの指示通りにプログラムを作成したが、教育現場で説明をしたときにこれは現場を知らないですねと指摘されたので、より現場を理解してプログラムを作成してほしい。